広報みまた

発行・編集　北諸県郡三股町総務課　☎52-1111　発行8月20日　No.270

町民憲章（昭和39年1月4日制定）

わたくしどもは、歴史に輝き山河うるわしい三股に生を受け、先人の協和と忍耐による郷土建設の偉業を継ぎ、郷土愛と開拓精神をもって、ここに明るく豊かな、明日の町づくりのためにこの憲章を定めます。

1　常に新しい希望をもって郷土の開発につとめましょう。
1　教育を尊び青少年を健やかに育てましょう。
1　環境を清潔にし健康の増進につとめましょう。
1　生活を工夫しよりよい風習をつくりましょう。
1　力をあわせねばり強く住みよい町を築きましょう。

三股町の花　サツキ：鳥　ホオジロ：木　イチョウ

スポーツ少年団

三股中央剣道

三股小と三股西小の児童30名で構成。
桑畑則雄さん（74歳）の指導を受けながら、早朝6時からの夏季練習に汗を流しています。

平成4年／8月号

おしらせ

学校週五日制 九月からスタート

毎月第二土曜日が休み

今年の二学期から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲・ろう・養護学校では、毎月第二土曜日が休みになります。

今月の納税

県町民税　2期
保険税　2期

納期　8月31日

職業ガイダンス相談

自分の個性にあった「じぶん色」の仕事選び、その他職業のことで悩んでいる方にコンピューターシステムによる適職探し、相談を行っています。

相談は日曜・祝日を除く午前九時から午後五時まで。ただし、土曜日は午後三時まで。学校単位の出張相談も行っています。お気軽にご相談下さい。

詳しくは、雇用促進事業団宮崎雇用促進センターへ
☎0985（22）0771

「一日ハローワーク」のお知らせ

都城安定所では、「一日ハローワーク」を企画しました。

当日は、アソカ幼稚園の園児によるマーチングのほか、いろいろな催しを企画しています。仕事を探している方、人材を求めている方、その他どんなことでもご相談ください。

●とき　平成4年9月4日（金）午前十時～午後三時
●ところ　地場産業センター

きりしまんぢだ

「環境保全チャリティーコンサート」バトルライブ1992

○日時　平成四年九月六日（日）
第一部　午後一時～四時（アマチュアバンド・ダンス）
第二部　午後六時～八時半（桑名晴子コンサート）
○会場　サンピア都城

愛の献血

次のとおり献血にご協力いただきました。

○六月八日
都城運転免許センター
都城農協三股支所　六十名

○七月七日
㈲福永樹脂工業
㈱イトウソーイング
臼井木工株式会社　九十四名

○七月二十日
役場（来庁者含む）　六十二名

ありがとうございました。今後とも皆様のあたたかいご協力をよろしくお願いします。

火災案内は ☎23-8500

火災の案内は、テレホンサービスで行っています。

火災が発生した際、場所などを確認したいときは、☎23-8500番へ

愛のご寄付

三股町社会福祉協議会では、忌明寄付を次の通りいただきました。

故人のご冥福をお祈りいたしますと共に、社会福祉発展のために有意義に利用させていただきます。

誠にありがとうございました。

平成四年七月一日から
平成四年七月三十一日まで

納入者	続柄	故人名	地区	金額
仮屋　義治	妻	ノブ子	(60)	田上　三万円
瀬尾　忠男	妻	チギ	(60)	仲町　三万円
堀内シヅミ	夫	兼雄	(73)	蓼池　三万円
藤原ミツエ	夫	早太郎	(87)	上米　五万円
楠見　学	母	セツ子	(61)	寺柱　三万円
原口　一郎	知人	杉浦セイ	(90)	上米　二万円
松原　嗣男	母	タメ	(88)	小鷺巣　三万円

三股町の人口

平成4年8月1日現在

男	10,300人	出生	24人
女	11,386人	死亡	11人
計	21,686人	転入	124人
前月比	＋67人	転出	70人
世帯数	7,199戸（＋26戸）		

長田地区

人口増加の中の過疎

40年前の半分以下に
農林業の低迷が原因か？

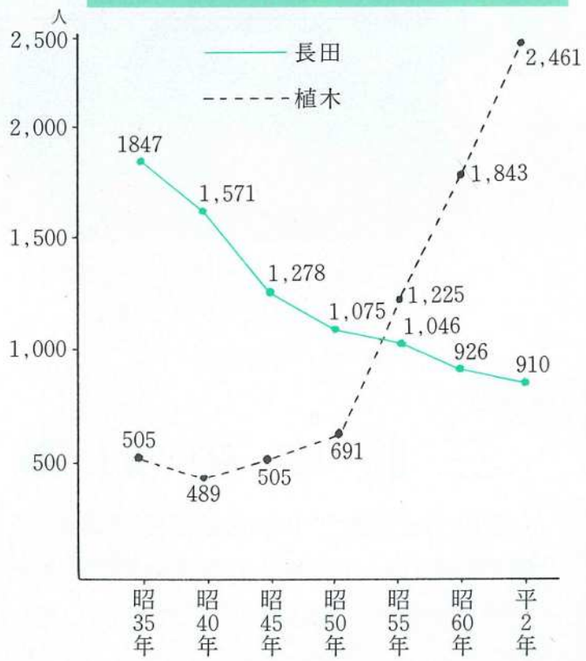
三股町の人口増加率は、清武町に次いで県内第2位。しかし、人口の流入が西部地域に集中しているため、東部地域では年々人口が減少する「西高東低」現象が続いています。

とりわけ山間部の長田地区の人口減少は深刻で、昭和二十五年に二、〇八七人であった人口が現在は半数以下の九四四人と大きく落ちこんでいます。

原因は、農林業の低迷に伴って会社勤めなどをする人が増え、通勤や通学に便利な中央部へ流出したこと。また、若者が結婚して団地などに入居すると、なかなか地元に戻りたがらなくなっているためです。地区内各所に点在する廃屋が、この人口流失の深刻な現状を物語っています。

長原の丘から大野集落を臨む

人口推移の比較



各所に点在する廃屋

活性化に向けて

長田棒踊りの保存伝承
轟木棒踊りも復活

人口の減少によって、高齢化の進行や小学校の複式学級の問題などが生まれており、過疎化の解消が急務。観光の振興や農業生産基盤整備、公営住宅の建設など行政の対応はもちろんですが、忘れてならないのが住民の活性化への取り組みです。

昭和五十二年に復活した長田棒踊りも、活性化に向けての一つの取り組み。

長田棒踊りは藩政時代、都城の殿様が長田で狩りをしたときに踊りを披露したのが始まりといわれ、若者たちに代々踊り継がれてきました。その後、昭和三十年代に若者層の流失に伴い途絶えていましたが、伝統文化の継承、地域活性化を目的に保存会が結成され復活しました。

踊りは、薩摩藩の示現流を舞踊化したもので、勇壮活発なもの。毎年四月に開かれる、つつじまつりや早馬まつりで披露されているほか、全国青年大会や県内の文化行事などにも出場、高い評価を受けています。

また、今年四月には轟木棒踊りも復活、地域活性化に向けて住民の新たな動きがはじまっています。

あなたの声を町政に

福永町長と語ろう

ふれあい行政
モーニング・フォーラム

町では、九月から毎月一回「ふれあい行政モーニング・フォーラム」を開催します。

これは、町民総参加のまちづくりを基本理念に、福永町長が皆さんとひざを突き合わせ、あすの「三股づくり」についてざっくばらんに語ろうというものです。

今後のまちづくりの進め方や三股町の将来像など、皆さんのユニークなアイデア、建設的なご提言をお聞かせください。

フォーラムには、どなたでも参加できます。ぞうりばきやジャージ姿など気軽な服装でおいでください。

記

一、日　時　九月十一日（金）
　　午前六時～七時
二、場　所　役場四階大会議室

あすの「三股づくり」について
あなたの
ユニークなアイデア
建設的なご提言を
お聞かせください。

農産物加工で現金収入

轟木生活改善グループ

むらおこしは婦人の手で

長田の活性化は婦人の手でと、農産物加工に取り組んでいるのが轟木生活改善グループ（轟木ムツ会長、正会員七名）。

現金収入につなげるため、昭和五十五年から味噌やゆべし、梅ジャム、漬物など農産加工品の製造に着手。特に「ゆべし」づくりには定評があり、都城北諸県郡内のグループに製造指導するほどの腕前。最近、わさび漬けも始め、グループでわさび田も経営しています。

加工品は、県主催の味のカーニバルや町のふるさとまつり、農協祭りなどで販売したり、農協の「ふるさと便」で都会に向けて発送。また、今年二月と七月には東京で開かれた「宮崎コシヒカリ・キャンペーン」に県内加工グループの中から唯一選ばれて出品。轟木会長は「今は必要な時に製造するだけで、収入は小遣い銭程度。都会のデパートなどに販路を拡大し、常時製造できるようにしたい」と意気込んでいます。

「しゃくなげの森」を経営

観光振興で活性化を

養殖業の池辺さん

個人経営の「しゃくなげの森」が長田にオープンしたのは平成元年四月。四、七ヘクタールの園内には五百種、三万本のしゃくなげと五千本のみつばつつじが植栽され、花の期間中一万五千人ほどの観光客でにぎわっています。

経営者の池辺紀典さん（五十一歳）の本業はやまめの養殖。つつじの名所「椎八重公園」が近くにあることから、渓流の女王「やまめ」と花木の女王「しゃくなげ」を結びつけた公園の経営に乗り出したもの。園内にはやまめ料理を出す食堂も経営。

池辺さんは「長田の活性化には観光が不可欠。しゃくなげ園ができたことで町の宣伝にもなるし、地元の人の雇用にもつながる」と年間を通して観光客を誘致できる公園づくりを推進中。

工芸の里

長田地区は、わにつか山系の山々に囲まれた10数キロメートルに及ぶ細長い地域。椎八重公園を含む長田峡の流域一帯は県立自然公園にも指定されています。

この美しい自然環境にひかれて、最近、陶芸家や工芸家が長田に移住、「工芸の里」としても脚光を浴びています。

移住者第1号

陶芸家の園田一成さん

独自の「うわぐすり」開発

工芸家移住の口火を切ったのが、昭和五十六年に仲町から長田へ移ってきた陶芸家の園田一成さん（四十三歳）。

園田さんは、県美術展や宮日美術展でたびたび特選に入賞している実力派。昭和六十二年には町文化賞も受賞しています。

「美しい自然に囲まれて仕事をしていると、いろんなアイデアが生まれてくるんですよ」と独特のうわぐすりを開発したり、陶器人形など新しい分野の作品にも挑戦しています。

二人の子供さんが生まれた長田は、今や園田さん一家のふるさと。活性化につながればと、長田小学校の児童を対象に陶芸教室を開いたり、地域の活動に積極的に参加しています。

活性化には子供が一番

現代工芸家の平山典子さん

日展、現代工芸展の常連

平成元年に東京から移ってきたのが、現代工芸家の平山典子さん（六十三歳）。都城市出身。自宅の隣に八軒の貸家「わらべの里」も経営。

平山さんは、もともと人形作家として活躍していましたが、十二年前に現代工芸の道に。以来、出品するだけでも難しいといわれる日展をはじめ、日本現代工芸美術展に数多く入選。現在、日本現代工芸美術家協会会員で同協会の審査員の資格も持っています。

平山さんは「自然に囲まれ、創作意欲も充分」と目下、次の展覧会に向けて新たな作品を製作中。

「わらべの里ですでに七、八人の子供が生まれました。長田の活性化にとっては子供が増えるのが一番では」と。

今の生活環境に満足しています

着物染色家・画家

東京から移住

坂ノ上　隆さん

坂ノ上隆さん（四十四歳）は、東京都出身の着物デザイナー兼画家。染色での雅号は「静山」。自然豊かなところで仕事がしたいと平成二年に長田へ。

坂ノ上さんの友禅（ゆうぜん）、ろうけつ染めの技術は中央でも高く評価されており、通常、下絵・上絵・染色の分業制で行われる三十余りの工程を一人で行っています。また、絵も東京では美術大学の学生に技術指導していたほどの腕前。

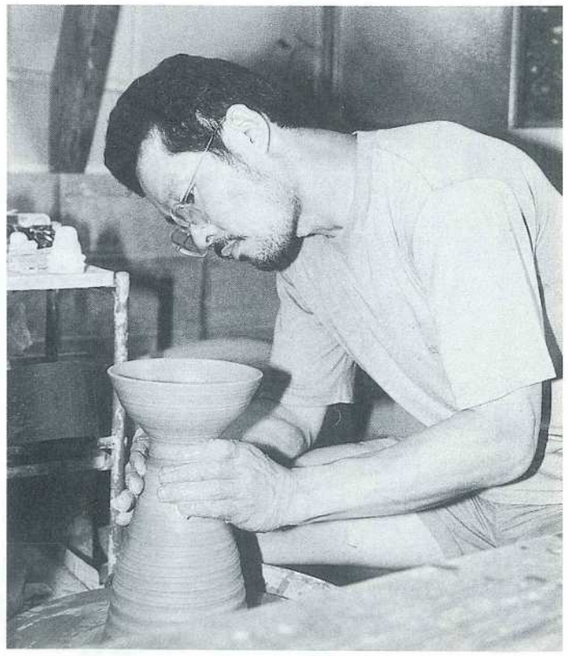
坂ノ上さんは「自然はもちろん、近所の人たちも付き合いやすい人ばかり」と現在の生活環境に満足気味。

「地方の生活費は都会に比べれば安あがり。その点七、八割の仕事量で暮らしていける。余った時間を地域社会で利用してもらえば」と、美術大を志す子供たちにデッサンなどの指導をしています。

霧島をテーマに焼き物づくり

自然環境が素晴らしいと

陶芸家の山下盛親さん



長田の自然が好きだからと、昭和六十三年に都城市から移ってきたのが陶芸家の山下盛親さん（四十歳）。地域的には梶山ですが、長田の入口近くに窯を開き、工芸の里の一員です。

山下さんは、陶芸のほか、山鳥の写真撮影や都城市民楽団の指揮者も努める多趣味の人。自宅に古式にのっとった茶室や水琴窟（すいきんくつ）も設けています。現在、霧島をテーマにした焼き物づくりに取り組んでおり、平成二年には県美術展の特選にも選ばれています。

山下さんは「ここの自然は素晴らしい。山の間から霧島が見え、新緑、紅葉、春には藤や山桜も咲くんです。せせらぎの音や山鳥の鳴き声を聞いていると創作意欲がわいてきますよ」と話してくれました。

贖（あがな）いの日々

償いきれない罪

内装工　25歳

平成二年二月十八日、留置所でうす暗い朝を迎えた私は、二日酔いの頭を抱え、何故こんな所にいるのだろうと不思議に思いました。でも、前夜の自分の行動を記憶の中で辿っていくうちすべてが分かり、又、それと同時に、体から血の気が引いていくのが感じられました。

前日の十七日の夕方、仕事を終え家に帰ると、妻の姉の子、つまり姪が生まれたと聞いて、すぐに姉の入院する病院へ行きました。

その後、妻方の実家へ行ってみんなで出産祝いをし、楽しいひと時を過ごしました。

この時すでに、けっこうな量の酒を飲み、いい気分になっていました。そこでやめておけばよいものを、家に帰ってからも酒を飲み始め、挙句の果てには、さ細なことから妻と喧嘩をしてしまいました。

家にいづらくなり、友人の住むアパートへ行こうと思い、家を飛び出しました。そして、私は、当たり前のように車に乗り込み、当たり前のように車を運転していました。

酒に酔い、そのうえ妻との喧嘩で気がイラだっていた私の運転は、事故を起こしても当然と言えるような走り方でした。

そして、家を出てから五分も走ったでしょうか、その交差点に差しかかった時、前方の信号が赤であるのに気づいたにもかかわらず、酒に酔ったいきおいで「えい、行ってしまえ。」と、その信号を無視してしまったのです。

次の瞬間、左前方に人影を見つけ、「アッ」と、思いブレーキを踏んだのですが、すでに遅く、間に合いませんでした。

「バリッ」と、鈍い音がして、フロントガラスが割れました。その一瞬の情景は、今でもはっきり脳裏に焼きついています。

その後のことは、気が動転し、何がなんだか分らなくなっていました。

そして、気がついた時には、その場から逃げてしまっていたのです。

でも、このまま逃げきれるものではないと思った私は、事故現場に戻り、その場で現行犯逮捕されました。

次の日、十八日の朝、警察の方から被害者が五人もいて、その内の一人の方が亡くなり、一人の方が重傷、そして、三人の方が軽傷と教えられました。

その時受けたショックは、何とも言いようのない、私が、今までに受けたことのあるショックの何十倍、何百倍の重さがありました。

そして、数日後、重傷だった方も亡くなられたと聞いたときには、死んでしまいたいと思いました。

そのショックの重さに耐えられなくなり潰れそうになっている時、私を助けてくれたのが、御遺族の言葉でした。

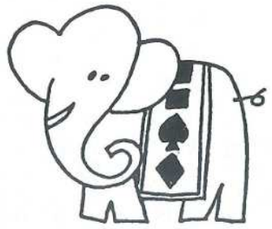
「私も車を運転する身だから、いつ君と同じ立場に立つかもしれない。君はまだ若いのだし、これから先、くよくよせずに生きるように。」と、何物にも替えがたいありがたい言葉でした。

受刑生活が始まり、何ヶ月が過ぎた今、私はこう思います。

私は一生をかけて、亡くなられた方々の御冥福を祈るとともに、御遺族の方々のお気持ちが少しでも和らげばと、精一杯生きてゆこうと思っております。

三股町のワースト順位

六月末現在　七位



かがやく瞳

―子育ての手引き―

今、子どもの心が見えますか

小さいころは家庭中心であった子どもも、成長するにつれて、行動範囲も驚くほど広がっていきます。また、自己中心のものの考え方や行動から、周りを気にした行動が身についてきます。さらに、自分と友達との違いがわかるようになります。

このように、日々成長し変わっていく子どもの気持ちを理解してやることが親の役割だと思います。

おとなしくすなおで、親のいうことをきく子がよい子で、いたずらやけんかをしたり落ち着きのない子はいけない子、と一方的に思っている親が少なくありません。

子供はずんずん大きくなっていきます。

子どもから

「お母さんだってずるいんじゃない？」と言われたとき、

「もう自己批判の力がついたのかしら、それで親の批判もするようになったんだわ」と反省したいものです。

子どもの姿、形より、子どもの心の成長を大切にしましょう。

子どもが物事に立ち向かっていく好奇心、勇気、忍耐、努力を認めてやるのです。すると、子どもは、「よし、もっとがんばろう」とやる気を起こすのです。

子どもの長所と短所

● 両方とも触れれば大きくなるのだったら、短所には触れずに、そっとしておきましょう。

● 長所を探し出してそこに触れ、そこの伸びることを喜び、感動しましょう。

● 長所や短所に気付かない子には、長所を認め、喜び驚いて見せた後、「あなたの　ここは短所よ。それがなくなったら、お母さんもうれしいわ」と抱きしめましょう。

言葉のもつ力

アメリカのアリゾナ州にある植物研究所の実験によると、「かわいい、かわいい」と愛情をこめて言葉をかけた植物は、よく育つということです。その上、手でなでると、かなり大きく育ち、見事なほど実るそうです。

ところが、反対に言葉もかけず、なでることもしないで水と栄養分だけで育てたものは、一定のところで成長が止まってしまい、実などはならないとのことです。

また、植物にも波長があり、穏やかなときには一定の波長をつくりますが、いったん気分を害してしまうと、乱れた波長になるそうです。

「バカ」などと言ったら結果はてきめんとのことです。

言葉の履歴書

うまが合う

秋空が高く澄み切ってさわやかな季節を、候文の手紙などでは、「天高く馬肥ゆる候」と表現しました。これは中国唐代の詩人朴審言が、出征する友人に贈った詩の一節、「秋高くして塞馬肥ゆ」からきた成句です。

秋がくると、騎馬民族の匈奴が辺境の塞に体重の増した元気な馬を集めて、侵攻の機を狙っていたのです。しかし、地続きの国境がないわが国では、肥えた馬といえば食欲が進む秋季のシンボルとされてきました。

うま（uma）、むま（mma）という日本語は、馬自体が大陸から伝わるとともに入ってきた中国語の馬（ma）によるものと考えられます。それ以来、馬と日本人の深いかかわりを示す言葉も少なくありません。

「うまが合う」は、馬と乗り手の呼吸がぴったりなところから、気が合う、意気投合するの意。

「噛む馬にも合い口」は、どんな人にも気の合う相手がいることをいったものです。また、「馬は馬連れ」は、うまの合う人が一緒に行動すればうまくいくたとえに使われてきました。

図書館だより（第69号）

返本ポスト　利用者ぽつぽつ

図書館玄関入口に設置して、二ヶ月ほど経過しましたが、この間トラブルもなく利用されています。

今後とも、これだけは心得てください。

○このポストの利用は、あくまでも、図書館の閉まっている時に限ります。

○備え付けの用紙に借りた人の名前を書いて、はさんでポストに入れてください。特に県立図書館の本と紙しばいは忘れずに。借りた人の名前がわからず貸出カードを見つけるのに困りますから。

○しかし、借用期間内に来館し直接係の者に示して返すことが原則で、このポストの設置は便宜的なものです。

要らなくなった眠っている遊んでいる寄贈してください。本

ことしも、11月の「三股町ふるさとまつり」の時、本の無料交換会を実施する予定です。

幼児向き、小中学生向きの本をいただきたいのですが、一般向きの本も歓迎します。ご一報ください。図書館52－1111（内線192）または、代表堂領敦子52－6389　野崎裕美　52－4069（ぶどうの会）

全地区児童館へ児童図書交換

七月九日、十一日　各館五十冊ずつ児童図書の入れ替えを行いました。

図書館から遠く離れていて、なかなか来れない人は、大いに利用してください。

九月のお知らせ

休館日

- 1日　図書整理日
- 7・14・28日　月曜日（21日の月曜日は開館）
- 8・22・29日　火の午前中
- 20日　第三日曜日
- 15日　敬老の日
- 23日　秋分の日

今よく読まれている本

- 天才えりちゃん金魚を食べた
- 天才えりちゃん月へ行く
- 天才えりちゃんが消えた

新刊図書のお知らせ

町立図書館では、次の図書を入手しました。ぜひご利用ください。

書名	著者名
【一般向】	
女の浅知恵、男の悪知恵	島田　一男
至高聖所	松村　栄子
こころの処方箋	河合　隼雄
野口英世の妻	飯沼　信子
野菜栽培の基礎知識	鈴木　芳夫
洋ランつくりコツのコツ	岡田　弘
菊つくりコツのコツ	上村　遥
草の海	椎名　誠
いちずに一本道いちずに一ツ事	相田みつを
食後のライスは大盛りで	東海林さだお
優しい碇泊地	坂上　弘
水晶のピラミッド	島田　荘司
タマネギ畑で涙して	山下　惣一
【小・中学生向】	
学校の怪談 七、塾の帰りはおばけ屋敷	日本民話の会
八、学校の七不思議	日本民話の会
九、魔界からのお知らせ	日本民話の会
十、真夜中のミステリー・ツアー	日本民話の会
ばばしゃん	坂井ひろ子
よい子の折り紙ブック	山口　真
やさしいこうさく　全十二巻	竹井　史郎
だれ？	谷川俊太郎
なつのしっぽ	椎名　誠
【幼児向】	
かみしばい ぬすまれたパンプキンパイ	田沢梨枝子
ミイラをみつけたおひめさま	東川　洋子
あいうえおばけだぞ	五味　太郎
ともだちくも	木葉井悦子
たんじょうびいつ？	やすいすえこ
へんじをしたほらあな	西本　鶏介
へびくんのおさんぽ	いとうひろし
にんじんとごぼうとだいこん	和歌山静子
そうじき	ねじめ正一

町の話題

はり・きゅうの無料奉仕

鍼灸師会が五地区で

鍼灸（しんきゅう）師会都城支部（石川信太郎支部長、会員二十名）は、さきほど長田の第五地区公民館を訪れ、地区住民にはり、きゅうの無料奉仕を行いました。

ボランティア活動は、へき地住民を対象に昭和五十七年から取り組んでいるもの。同公民館を訪問したのは二回目。

当日は十三人の鍼灸師が参加。午前九時から来館者の体の具合などを問診した後、五台のベッドで適切な治療。肩や腰の痛みを訴えていた高齢者や農林業従事者など、「とても体の調子が良くなった」と喜んでいました。

50年ぶりに遺族のもとへ

遺品の戦陣日記が届く

太平洋戦争中、南太平洋のトラック諸島で戦死した別府豊さん（当時二十二歳、寺柱出身）の戦陣日記が終戦記念日間近の八月五日、遺族のもとに届けられました。

日記帳は、元米軍兵士が戦場から持ち帰り大切に保管していたもので、先月まで米国ウィスコンシン州に留学していた福島県の宗像崇さん（十七歳）と友人クリス・バスキーさん（十九歳）が「遺族に返して欲しい」と依頼され持参しました。

日記帳は縦十五センチ、横十センチの薄黒色。日付は、佐世保を出港した昭和十七年六月七日から同十一月二十八日までで、マラリアにかかったことや敵機の襲来など、当時の戦況の様子が生々しくつづられています。

妹の別府トキエさん（七十歳）らは「佐世保に見送りに行ったのに会えずじまいでした。海で死んだとばかり思っていましたが、遺品が返ってきてうれしい」と豊さんへの想いを新たにしていました。

わにつか山を清掃

勝岡みどりの少年団

勝岡小のみどりの少年団は７月30日、わにつか山頂と登山道の清掃奉仕を行いました。

当日は、団員20名に役場の企画調整課や都市計画課などの職員10名余りが同行。マイクロバスで午前11時ごろ頂上に到着した後、テレビ塔周辺の清掃を実施。昼食後、長田の大八重まで徒歩で下りながら、登山道に捨てられている空き缶やチリを拾いました。

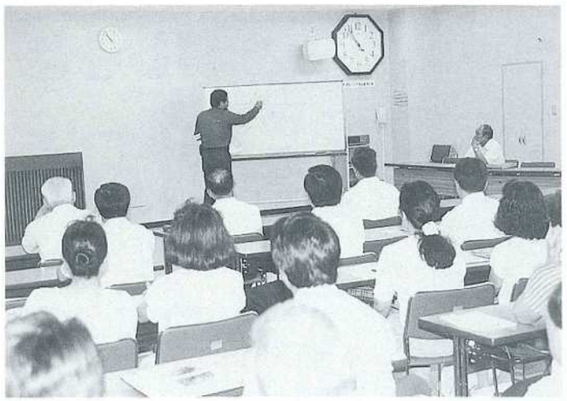
歩いた2,200km

まん歩会が二百回達成

高齢者の健康の維持増進を目的に、歩くことに挑戦している三股まん歩会（渡辺清会長、会員四十三名）は、このほど例会二百回を達成しました。

同会は、昭和五十年六月の結成。以来、毎月一回欠かさず歩くことに挑戦しており、この十六年間で例会の回数は二百回に。距離は通常十キロメートル未満ですが、年に数回は椎八重公園や都城市の金御岳など往復二十キロメートル以上の距離に挑戦することも。これまでに歩いた距離は約二千二百キロメートル。

渡辺会長は「老化防止には歩くことが一番。五千キロをめざしてまだまだ歩き続けますよ。」と話しています。



安全運転の模範示して

役場で安全運転講習会

町職員を対象にした安全運転講習会がこのほど開かれ、役場職員をはじめ、町立病院や給食センター、学校の職員など約百五十名が受講しました。

これは町内で交通事故が多発し、常にワースト上位を低迷していることから、町職員が率先して安全運転を心がけようと行ったもの。

講習会では、三股派出所の植木部長が町内の交通事故の特徴や死亡事故の現況などについて説明した後、「公務員には常に住民の目が注がれています。町内から交通事故を出さないために、まず皆さんが模範を示して欲しい」と話し、受講者は安全運転を再認識していました。

炎天下で熱戦

ソフトボール大会

住民の親睦と健康づくりを目的とした、婦人・壮年ソフトボール大会は七月十二日、旭ヶ丘運動公園を中心会場として開かれました。

大会には、婦人の部に九チーム、壮年の部四十歳代に十六チーム、五十歳代に四チームが参加、炎天下で熱戦を繰り広げました。

優勝チームは次のとおり

▽**婦人の部**　七地区

▽**壮年の部**

四十歳代（Aパート）二地区A

（Bパート）上　新

五十歳代　植　木